

化学物質の内分泌かく乱作用に関する評価等推進事業

345 百万円 (255 百万円)

環境保健部環境安全課

1. 事業の概要

化学物質の内分泌かく乱作用については、未解明な部分が多く、環境省では、平成10年に「環境ホルモン戦略計画-SPEED'98-」、平成17年に「ExTEND2005」を策定し、各種取組を実施してきた。この成果として科学的な知見を蓄積し、評価のための試験法開発を進めることができた。一方、欧米諸国やOECDでは化学物質の内分泌かく乱作用の評価を促進する動きがある。

これらを踏まえ、環境省では、平成22年7月に「EXTEND2010」をとりまとめ、引き続き基盤的研究等を進める一方で、環境リスクの評価及び管理のため、評価手法の確立と評価の実施を加速化することとした。

本事業では、これを受けて、引き続き基盤的研究、試験法の検証、二国間協力等を進めつつ、平成23年度からは、内分泌かく乱作用が疑われる化学物質を選定して、これまでに開発した試験法を用いて試験を行い、影響評価やリスク評価を実施することを重点的に進めていく。

2. 事業計画

	22年度	23年度	24年度	25年度以降
(1) 基盤的研究				
(2) 野生生物の生物学的知見研究				
(3) リスク評価等検討推進				
・化学物質の内分泌かく乱の作用影響評価				
・試験実施				
・リスク評価				
(4) 試験法検証推進				
(5) 国際協力推進				

3. 施策の効果

化学物質の内分泌かく乱作用について、リスク評価手法を確立した上でその評価を進めることで、環境行政によるリスク管理の必要性を判断することが可能となり、環境リスクを効果的に低減することができる。

化学物質の内分泌かく乱作用に関する評価等推進事業

これまでの成果

SPEED 98

優先して調査研究を進める必要性が高い物質のリストを作成した上で調査研究を実施し、4物質について魚類(メダカ)に対して内分泌かく乱作用を有すると推察される等の成果。

ExTEND2005

開発を進めてきた魚類、両生類及び無脊椎動物の試験法が、OECDにおける国際的なテストガイドラインとして採択される等の成果。

EXTEND2010の策定
(H22.7)

今後の取り組み

これまでの知見や開発された試験法を基に、**評価手法の確立と評価の実施を加速化する。**

内分泌かく乱作用等が疑われる化学物質を選定し、これまでに開発した試験法を用いて試験を行い、影響評価やリスク評価を進める。

まだ知見等が不十分な点も多くあり、引き続き基盤的研究、野生生物の生物学的知見研究、試験法の検証を実施していく。

日英共同研究等、二国間の国際協力事業を進める。